

社会奉仕委員会アワー

●社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協会 理事 石田英子様

「チェシャーホームと新『しそう自立の家』」



1995年に兵庫県宍粟市波賀町に開設した障害のある人たちの生活の場「しそう自立の家」が、この度宍粟市山崎町に移転し再出発をしました。

昨年11月に龍野ロータリークラブ例会にお招きいただき、4年前の豪雨から始まった移転計画の説明をし、ご協力をお願いいたしました。お陰様で本年3月末に完成し、4月10日に竣工式を迎えることが出来ました。新型コロナウイルス感染症やウクライナ戦争に伴う大きな経済変動のさなかに無事竣工できたことを感謝しています。皆様にご協力いただきましたことを心より感謝申し上げます。

4月19日20日に引っ越しをして、安全な場所の新しい建物での暮らしが始まりました。障害のある人たちが生活環境の変化にうまく適応されるかどうかを心配しましたが、大きな混乱なく新しい生活がスタートしました。より良い環境であることと、何より安全な場所であることに、皆さんの笑顔があふれました。(写真と動画で建物の説明)

「しそう自立の家」建設概要

建設地	兵庫県宍粟市山崎町与位 696-7
構造	木造一部鉄筋コンクリート造・ 鉄骨造2階建て
敷地面積	4,593.64 平方メートル
延べ床面積	2,503.55 平方メートル
総事業費	1,099,218,112 円

「しそう自立の家」は英国ロンドンに本部を置くチェシャーホームのひとつとして運営しています。

チェシャーホームは英国のレオナルド・チェシャーさんが始められた、障害のある人が主体的に暮らす場です。入院中だったチェシャーさんが退院時に、隣のベッドにいた癌末期の友人を、緑の見える場所で過ごせるようにと、自宅と一緒に帰られたことから始まりました。英国から世界各国にも広がり、日本にも設立の働きかけがありました。

障害のある子どもたちを地域で守り育てようと、ボランティアの学生たちと、障害児キャンプや療育活動をすすめる中で、学齢期を終え成人していく人たちが、管理的ではなく家庭的な暮らしの出来る場を探していたころでした。当時の今井鎮雄理事長が、チェシャーホームの理念に共鳴して、日本の法律の下で障害者施設として「自立の家」を設立することを計画しました。

世界55ヶ国に250以上のチェシャーホームがあります。日本では「はりま自立の家」「はんしん自立の家」「しそう自立の家」の3ヶ所です。以前は4年毎にロンドンで国際会議がありました。我々は東南アジア太平洋地区に所属し、アジアの各国に2年毎に集まりました。コロナ禍の今は国際会議が開催できず、今回の「しそう自立の家」竣工式にも集まれませんでした。重い障害の人たちも国際的な視野を持ちつなげていきたいと願っています。

チェシャーホームでは主体的な暮らしの場として、入居者ひとりひとりが尊重されます。地域の人とのつながりを大切にします。

今井鎮雄前理事長は、設立理念として次のように呼びかけました。

「平和な社会とは、協力の中から生まれる『共に生きる社会』にほかならないと思います。今、私たちはひとつの施設をつくろうとしているのではなく、このような人間の理想社会の建設を夢みながら『自立の家』を建設したいと思っています。」

この言葉は、戦いのやまない今の困難な社会の中でよりいっそう意義深く響きます。

建物が完成した今、次のステップとして出来ることから取り組みたいと、龍野ロータリークラブのみなさまにご相談して、コンサートが実現することになりました。

10月16日（日）14時から、池村佳子さん（チェロ）、土屋友成さん（ピアノ）が演奏を引き受けて下さいました。池村さんは、かつて障害児キャンプにメンバーとして車いすで参加された方とのつながりがあります。共生社会を作り出す第一歩にふさわしいと思い演奏をお願いしました。

「はんしん自立の家」で入居者の方々と一緒に音楽を楽しむ時間を作ってくださっている音楽療法ボランティアのおひとりが、「しそう自立の家」でも音楽を通して人の輪が広がるようにとランドピアノを寄贈して下さいました。

あいにく、新型コロナウイルス感染防止のため多くの方々においでいただくことが出来ず、規模を縮小しました。開催を共にして下さる皆様方のおひとりおひとりのつながりを大切にしたいと思います。

「共生社会」を実現させるために、ぜひご一緒に歩んでいただきたいと思います。



竣工式（2022年4月）



当クラブから寄贈した観葉植物

